

記者発表（資料配布）				
月／日 (曜日)	事務所等名	電話	発表者 (担当者)	その他の 配布先
10/29 (金)	兵庫県立農林水産技術総合センター 淡路農業技術センター	(0799) 42-4920	所長 椿原 健右 (畜産部長 生田健太郎)	淡路県民局

「乳成分で乳牛の健康チェック」
 (全国に先駆けて近畿エリアで酪農家への診断通知サービスを充実)

淡路農業技術センターと近畿生乳販売農協連合会生乳検査所（小野市）の共同研究により、乳成分分析装置を活用して乳中脂肪酸組成や血液成分を推定する技術を開発した。この技術で推定したデータと従来の牛群検定データを併せて解析したところ、飼料摂取量の推定や疾病リスク判定ができた。既に令和元年5月から酪農家に対して毎月診断通知サービスとして情報提供（FAX とメールで通知）しているが、診断基準値の改訂や産後の健康状態に関する情報の追加などバージョンアップを図ることで利用者から評価を得ている。さらに、11月からは人工知能を活用し、牛毎に栄養の過不足、疾病リスク、飼料摂取状況などの診断コメントを追加提供する。

1 診断通知サービスを提供する酪農家数(R3年9月末時点)

随時の個体検査：近畿生乳販売農協連合会加入農家全 359 戸（うち兵庫県 208 戸）
 毎月の全頭検査：138 戸（うち兵庫県 81 戸）

2 酪農家のメリット

酪農家はこれらの情報に基づいて飼養牛の健康や栄養状態を把握し、飼養改善や診療の依頼に活用でき、生乳生産の効率アップを図ることができる。

- ・ 周産期疾病の早期治療による損耗低減。
 - ・ 飼料の適正給与によるコスト削減と乳量向上。
 - ・ 受胎率向上で分娩間隔が短縮することによる乳量の向上と後継牛確保。
- データに基づく改善を指導者と連携して酪農家を実施すれば生乳生産量にして2～3割程度の改善が図れると期待している。

3 取り組みの先駆性

現在、全国各地で乳成分分析装置による乳中脂肪酸の分析準備が進められているが、酪農先進地の北海道においても、ようやく乳中脂肪酸の分析体制が整ったばかりで、未だ酪農家への情報還元には至っていない。全国に先駆けた取り組みである。

4 取り組みに関連した現在進行中の試験研究内容

- (1) 乳中脂肪酸組成に基づいた酪農家における飼養改善効果の現地実証
 県内6戸を対象に農業改良普及センターと共同で実施中
- (2) 現地指導で活用できる近赤外線分光装置による飼料分析装置の開発
 酪農家の飼料成分を迅速に把握するため、県内で給与されている種々の飼料サンプルを収集し、従来法による分析と近赤外線スペクトルデータを集積中。

5 その他 取材可能な酪農家 榎本牧場（南あわじ市）